

中田 國太郎 選 投稿数17首

愛し嫁の命よ突如間に消ゆ胸裂くる思ひああ運命か
 (評) 若い嫁の命が突然消えてしまった姑の慟哭の歌である。その悲しみのいかに深く大きいものかは「胸裂くる思ひ」の言葉に込められている。短歌とは、正に人間の命の叫びなのである。次に島木赤彦の胃瘍で死期の迫っている親の子どもを思う痛切な魂の叫びの首をあげる。「隣室に書よむ子らの声聞けば心に沁みて生きたかりけり」の結句の「生きたかりけり」に込められた方感の思いが胸にひびいてくるのである。眞下作、長年親んだ籠売りとの人情の交流を「品を買つ」に感じる。新井作、繭玉は、秩父盆地で育った者の郷愁を誘う。野口作、「残りのおせち」に生活実感が漂う。

年一度来る籠売りと健在を喜び合いて一品を買つ
 養蚕で暮した時を偲びつつ今年も老妻は繭玉つくる
 子や孫が帰り洗濯布団干し夫との夕餉は残りのおせち
 波風も必死で乗り越え六十年子らに囲まれダイヤ婚祝ふ
 笑いあり語らいありて陽だまりの身近な幸せ夫の髪刈る
 梅園の雪解け径を伝ひ来てあまたの彩と香に触れにけり
 絆なき都会社会と比ぶればまだ良きと思ふこの集落は
 躰糸つけたるままの母の衣を纏ひて偲ぶ梅日和かな
 子を寝かせ夜半まで縫い物せし母を偲びつ炬燵に編み物なしぬ
 地雷踏み片足取られし青年の義足の歩み笑みは痛まし
 裸木に花を咲かせ新雪は絵画のごときわが窓に映ゆ
 茶飲み友棺に納まり初めての化粧の顔の美しきかな

三沢 眞下 杏子
 皆野 新井 茂
 皆野 野口 貞子
 皆野 金子善次郎
 三沢 新井 愛子
 上日野沢 四方田利男
 皆野 笠原三江子
 下日野沢 浅見 豊子
 皆野 塩田 千代
 金崎 山田 雅子
 三沢 鈴木 貞恵

引間 豊作 選 投稿数21句

大寒や雀の遊ぶ松の影
 (評) 大寒とは、月の廿日頃より節分迄、冬の期間のうち最も寒さの厳しい時。寒さに小鳥等は羽を膨ませて羽毛の間に空気の層をつくり、防寒をしている。この様な状態をふくら雀とよんで親しんでいるが、近年雀や鴉といふこの辺でありふれた鳥の姿が、どうした訳かめっきり減っている。そんな折に庭の松に遊ぶ雀に逢った至福を羨ましくさへ思う。冬帽子の句、戦前の写真を見ると、中折帽子や鳥打帽を被った人が多いが、現在は冬でも無帽の人が増え、この句は貴重な作品であろう。

散策の素顔がのぞく冬帽子
 日脚伸ぶ床踏みそめし友の足
 凍てつきし朝のカーテンはがしけり
 下日野沢 高山 ユウ
 皆野 関根 助市
 冬之滞客待ち貌のもやい舟
 皆野 根岸 詩子
 立春の日を弾き翔つ群雀
 雲もなく遙か麦芽の列をなし
 三沢 横田ハルジ
 三沢 眞下 杏子
 群すずめ朝の枯野を飛びたてり
 下日野沢 引間富美子
 苺餅露店にならべ蔵の街
 下日野沢 引間富美子
 しばらくは氷柱の神秘に見入りけり
 年の数一度に食へず鬼の豆
 三沢 沢野 恒平
 皆野 大沼シヅ子
 怒ろに繭玉木に飾りけり
 三沢 鈴木 貞恵
 一枝の着雪散らす風のみち
 三沢 新井 民子

金沢 飯嶋満寿子

俳句・短歌を募集
 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して
 総務課へお寄せください。
 1人1句、1首に限ります。
 8日必着

1歳のお誕生日おめでとう



隆誓くん

みずほ区
 児玉 隆一さん
 理恵子さん
 いつも笑顔の隆誓くん。
 元気でやさしい男の子に
 育ってね。



宇杏くん

みずほ区
 太幡 哲也さん
 歩さん
 いつも笑顔のうつくん☆
 元気で思いやりのある子
 に育ってね!!



逢夢くん

駒形区
 山口 雄基さん
 瞳さん
 逢夢くん1才おめでとう☆
 元気でスポーツ万能な
 子になってね♡



瑞基くん

親鼻区
 新井 憲史さん
 伊以さん
 瑞基おめでとう!
 元気いっぱい
 たくましく育ってね☆

※満1歳の赤ちゃんを募集します。4月号の締め切りは、3月10日(水)まで。ホームページからも応募できます。